

# コーパス分析から得られる現代日本語の左方転位構文の特徴 -節内代名詞要素の文法関係に着目して-

言語学・応用言語学専門分野

2020（令和2）年入学

久保山由梨

2024（令和6）年1月提出

## 要旨

本論文では、現代日本語における左方転位構文について、特に左方転移された外置名詞句が元の節内で果たす文法機能に着目して分析を行う。BCCWJ をはじめとした複数のコーパスを用いて、外置名詞句と照応する節内代名詞要素が主語なのか目的語なのか集計し、以下の事実を明らかにする。従来の欧米圏言語における研究で、節内代名詞要素は主語が一般的であるとされてきたが、現代日本語においてその傾向は明確ではなく、目的語の節内代名詞要素も多数表れていることが分かった。また、特に日本語話し言葉コーパス (CSJ) ではその傾向が強く、それがコーパスの違いから生じるものなのかを BCCWJ と CSJ で得られたデータを  $\chi^2$  乗検定と残差分析にかけることによって考察した。その結果、現代日本語において文語と口語の間で節内代名詞要素の文法関係の特徴に差異があり、特に口語において節内代名詞要素が目的語である頻度が有意に多いことが分かった。

## 目次

1. 序章（はじめに） .....	1
1.1. 対象とする構文.....	1
2. 現代日本語における左方転移構文に関する先行研究 .....	3
3. 調査方法 .....	4
3.1. 用例の収集.....	4
3.2. 分類.....	6
3.2.1. 左方転位構文の同定方法 .....	6
3.3. ラベリング .....	9
4. 調査結果 .....	12
4.1. 代名詞別の結果.....	12
4.2. コーパス別の左方転位構文の総数 .....	13
4.3. 調査結果の考察.....	13
5. 結論 .....	15
6. 今後の課題 .....	15
6.1. 研究対象の韻律的特徴を考慮できなかった問題 .....	15
6.2. 何を左方転位構文とするのかの問題 .....	15
6.3. 口語において節内代名詞要素が目的語である左方転位構文が多い理由	16
7. 参照文献 .....	17
謝辞 .....	18

## 1. 序章（はじめに）

### 1.1. 対象とする構文

左方転位構文とは、いわゆる基本語順から逸脱する語順を持った構文のひとつである。Lambrecht (2001) は、転位文、特に左方転位構文を「広い意味で指示的な構成素が、述語を含む節の境界を越えて、その左側に生起している文構造」と定義づけている（日本語訳は、山泉 (2013) より引用）。例として、以下の様なものが挙げられる（原典にはないが、後述する説明の便宜のため照応関係にある語に<sub>i</sub>を付した）。

- (1) **That** Chris<sub>i</sub>, he<sub>i</sub> sleeps late, yeah.

(Lambrecht 2001:1051)

- (2) 特に原稿の締め切り日<sub>i</sub>、これ<sub>i</sub>を厳守として決定するということです

(山泉 2013:433)

左方転移された要素は節外に外置(extrapose)されている。すなわち、典型的に、左方転位された要素は述語の支配を受けない。例えばドイツ語の左方転位構文である(3)について、Disser Film は本来述語 sah の目的語であるが、節外に外置されることによって述語の支配から外れ、主格に変化する。

- (3) Dieser Film<sub>i</sub>, als ich den<sub>i</sub> sah, war ich ein Kind.  
this.NOM movie when I it.ACC saw was I a kid

(Lambrecht 2001:1052)

また、沖縄県宮古島市伊良部島方言では、構文の節内要素は常に格標示されるのに対し、外置された要素は述語の支配から外れ、決して格標示されない（下地 2020）。すなわち、(4)のように節外に置かれた要素(mami)は必ず無助詞であり、(5)のように格助詞がつくと左方転位構文として成り立たなくなる。

- (4) mami<sub>i</sub>, uri<sub>i</sub>=u issjuu sikii turasii  
豆 それ=を 一升 すくって 渡して

- (5) \*mami=u<sub>i</sub>, uri<sub>i</sub>=u issjuu sikii turasii  
豆=を それ=を 一升 すくって 渡して

(下地 2020)

外置された要素の助詞に関して、現代日本語についても、井上(1978:78)が主題化文と比較したうえで、左方転位構文の外置された要素に「は」や格助詞が伴わないことを述べている。(6)の「あの恥知らず」を先頭を持ってきて主題化している、いわゆる主題化文の名詞句は「は」を伴うが、(7)のような左方転位構文の外置された要素は助詞を伴わない<sup>1</sup>。これは、外置された要素「あの恥知らず」が述語「なぐった」の支配を受けていないことが考えられる。

(6) あの恥知らずは、(\*あいつが)自分の妻をまたなぐった。

(7) あの恥知らず<sub>i</sub>、あいつ<sub>i</sub>が自分の妻をまたなぐった。

(井上 1987:78-79)

本論文では、転位された構成要素を**外置要素**と呼ぶ。外置要素と照応する節内要素は通常、代名詞（例えば「これ」）あるいは代名詞を含む構成素（「この人」など）として出現し、これが外置要素の文法関係（主語、目的語、etc.）を復元するために使われる。本論文ではこの代名詞・代名詞を含む構成素を**節内代名詞要素**と呼ぶ。

Lambrecht (2001: 1054)は、通言語的・類型論的な観点から左方転移構文を概観した代表的な研究である。Lambrecht は、節内代名詞要素の文法関係について最も一般的なものは主語であると明言する。しかし、実際に現代日本語で節内代名詞要素の文法関係がどうなっているのかについての詳細な研究はこれまであまりなされていない。そこで本論文では、この Lambrecht の指摘が現代日本語（標準語）の左方転移構文に当てはまるかを検証することを目的とする。その際、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）をはじめとする4つのコーパスを用いて検証する。

本論文の構成は以下のとおりである。まず第2章では、現代日本語の左方転位構文、その中でも特に節内代名詞要素の研究に関してまとめ、Lambrecht (2001)の指摘をふまえたうえで本研究の検証課題を明確化する。第3章ではコーパスを用いた検証方法を詳細に説明する。第4章ではその調査結果を数値で示し、数値から得られる節内代名詞の文法的特徴を考察する。また、 $\chi^2$ 二乗検定を用いてコーパスの違いが節内代名詞の文法的特徴に影響しているのかについても考察する。第5章では、結論として現代日本語の左方転位構文が

<sup>1</sup> 井上は、主題化文と左方転位構文の違いとして節内の代用形式（節内代名詞要素）の有無もあげている。すなわち、(6)のような代用形式（あいつが）があると不自然な文が主題化文であり、(7)のような代用形式の残されている文が左方転位構文ということである。しかし、以下の特に明確な表現を必要とする諸規則などの文書に見られる例では、主題化文でも代用形式が残されるとも述べられている。

(注例 1)名簿は、委員長がこれを保管する。

(井上 1978:79)

したがって、主題化文と左方転位構文の差は主題を表す「は」の有無のみだと述べている。

Lambrecht(2001)の指摘にあてはまっているかを述べ、第6章で本論文に残された検証の余地について記述する。

## 2. 現代日本語における左方転移構文に関する先行研究

現代日本語の左方転移構文について、これまで山泉（2013）、大江ほか（2020）という代表的な研究があるが、これら2つとも、節内代名詞要素の文法関係という観点からは研究を行っていない。ただし、以下に述べていくように、本研究に示唆を与えるいくつかの論点をもたらしている。

山泉（2013）は左方転位構文の情報構造的機能を中心に論じている。日本語において、節内代名詞要素は、itや「それ」のような自由形態素の代名詞に限らず、「あの」「この」「その」のような指示形容詞がついた名詞の形で現れることができると述べている。(8)がその例であり、「その+こと（名詞）」が外置要素「結束性が成立するために必要な意味の補給」と照応している。

(8) 結束性が成立するために必要な意味の補給<sub>i</sub>、そのこと<sub>i</sub>については後の節で論じる[後略]

（山泉 2013:434）

本論文でも、山泉（2013）の観点を引き継ぎ、節内代名詞要素として（自由形態素の代名詞の他に）指示形容詞のついた名詞も考慮する。

大江ほか（2020）は、BCCWJをはじめとする4種類のコーパスを用いて、左方転位構文の実例を分析している。節内代名詞要素に関する説明は「外置要素と同一指示の解釈を受ける代名詞」という記述にとどまっており、節内代名詞要素が果たす文法関係について明示的に扱っているわけではない。しかし、コーパスの例文検索条件で節内代名詞要素に続く助詞を「は」と「が」に限定して研究を行っている。このことから、現代日本語においても節内代名詞要素の典型的な文法関係は主語であるとの考えが前提にあると予想される。

以上を踏まえ、本研究では、現代日本語の左方転位構文において節内代名詞要素がどのような文法機能と結びつきやすいのか、Lambrecht（2001）の一般化どおり、節内代名詞要素は一般的に主語であるのかを検証していく。また、左方転位は通言語的に話し言葉であるとされることが多いが、大江ほか（2020）や山泉（2013）では、現代日本語においては左方転位構文が文語にも表れるということが指摘されている。その他にも、Lambrechtの定義する節内代名詞要素を含む左方転位構文は、現代日本語において文語的な構文であるという指摘もある（竹内 2016）。そのため、本研究ではCSJ、CWPC、NUCCの口語コーパスに文語コーパスであるBCCWJを加えた4つのコーパスで例文抽出を行い、構文の出現

数の分布も見る。

### 3. 調査方法

本研究では、以下の3つの段階を踏んで調査を実施した。すなわち、①用例の収集（コーパスより機械的に分類の対象となり得る例文を収集する）、②分類（収集した例文を、基準に従い左方転位構文とそれ以外の例文に分類する）、③ラベリング（左方転位構文の節内代名詞要素の文法関係を判定する）である。以下、それぞれについて詳述する。

#### 3.1. 用例の収集

大江ほか（2020）の用例収集法に基づき、『日本語話し言葉コーパス（CSJ : Corpus of Spontaneous Japanese）』、『名大会話コーパス（NUCC:Nagoya University Conversation Corpus）』、『現日研・職場談話コーパス（CWPC : Gen-Nichi-Ken Corpus of Workplace Conversation）』、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ : Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）』の4つのコーパスの短文検索を用いて例文を検索する。

大江らは、分析の対象となる文を効率的に収集するために次のような条件で例文検索を行っている。

##### (9) 大江ほか（2020）の例文抽出条件

- a. 外置要素が名詞句
- b. 代名詞に後続する助詞が「は」または「が」
- c. 節内代名詞要素が「それ」または「これ」
- d. 名詞と代名詞が隣り合っている

なお(9d)は名詞句の直後に「それ」または「これ」がくる例文を収集していることになり、(10)のような、左方転位構文であるものの外置要素の直後に節内代名詞要素が来ない例文は含まれない。

##### (10) あの恥知らず<sub>i</sub>、僕はあいつ<sub>i</sub>が嫌いだ。

[作例]

しかし、このような例文を機械的に抽出することは困難であるため、本論文においても(9d)をそのまま採用する。

本論文においては、節内代名詞要素の文法関係を分析する目的のため、(9b)、(9c)を改変して例文検索を行う。以下、それぞれの項目について、本論文でどのように扱うかを述べ

る。

まず(9a)については、左方転位要素で群を抜いて一般的なのは名詞句であるため (Lambrechet2001)、本論文でもそのまま名詞句で設定する。(9b)について、節内代名詞要素がどのような文法機能と結びつかを見るためには、格助詞を含め助詞の検索範囲を拡大する必要がある。すなわち、後続助詞が係助詞「は」と格助詞「が」のみだと、一部の例外を除いて<sup>2</sup>節内代名詞要素がほとんど主語に偏ってしまう可能性があるため、そのほかの助詞についても調べる必要がある。例えば格助詞には、「が」以外にも「を、に、へ、と、より、から、で、や、の」などの種類がある。実際以下のような左方転位構文があり、(11)は節内代名詞要素が目的語、(12)は節内代名詞要素が主語でも目的語でもない例文である。

(11) コミカルな感じをふくんだ三田佳子のイメージ *i*、これ *i*を作りあげたことがいま  
の大人気の秘密といえるんでしょうね。

(12) すなわち第三幕 *i*、これ *i*より先はぼくの現在の知識では何の役にも立たないこの  
脚本の限界点だった。

(BCCWJ)

また、その他にも(13)や(14)のような、副助詞が代名詞に後続する例文も存在する。

(13) セルフプロデュース *i*、これ *i*さえできれば鬼に金棒です。

(14) 清々しい静けさ *i*、それ *i*だけがこの世のくるいを直すのだ

(BCCWJ)

のことから、今回はコーパスの例文検索機能に基づき、代名詞に後続する助詞を接続助詞以外の4つの「格助詞」「係助詞」「副助詞」「終助詞」に広げ、検索を行う<sup>3</sup>（表1）。

(9c)について、そのほかの指示代名詞である「あれ」に加えて、山泉（2013）が「指示形容詞がつく名詞も節内代名詞要素になりえる」と述べているため、節内代名詞要素が「指示形容詞（この、その、あの）+名詞または名詞句」の条件でも例文を収集する。この際、

---

<sup>2</sup> 「水、それが飲みたい」などは、格助詞「が」を伴っているものの、節内代名詞要素は目的語であつて主語ではない。

<sup>3</sup> 接続助詞は、「ば」「ので」「けれど」など、動詞などの用言や助動詞の後ろについて前後の文節を接続する助詞である。したがって、名詞句と同一指示を受ける節内代名詞要素に後続することはありえないため、除外している。

コーパスの短文検索の機能上、指示形容詞に継続する名詞句を指定することはできない<sup>4</sup>。そのため、指示形容詞のつく名詞を節内代名詞要素に設定して調べる際は、キー（指示形容詞）の後続共起条件に名詞や助詞などを設定するという方法を探らずに、「名詞（句）+この」や「名詞（句）+その」「名詞（句）+あの」という条件で例文を収集する。

まとめると、例文検索のキー条件と後続共起条件の組み合わせは表1のようになる。これに加えて、外置要素は名詞句であるので、キーの前方共起条件は全て名詞で設定する<sup>5</sup>。

表1 例文収集におけるキー条件と後続共起条件

①		キー条件	×	後続共起条件	②	キー条件
	a.節内代名詞要素	b.助詞		指示形容詞+名詞(句)	この	
指示代名詞	これ	格助詞			その	
	それ	係助詞			あの	
	あれ	副助詞				
		終助詞				

※それぞれ後続名詞句と後続助詞の設定はなし。

### 3.2. 分類

コーパスより抽出した例文を、左方転位構文とそれ以外の文に分類する。

#### 3.2.1. 左方転位構文の同定方法

Lambrecht (2001)に従い、本論文では、以下のすべてを満たす構文を左方転移構文とみなす。以下は Lambrecht (2001)の定義を山泉(2013: 432)が和訳したものである。なお、左方転位要素が本論文での外置要素、Pronominal が本論文での節内代名詞要素にあたる。

##### (15)左方転移構文の同定基準

- a. 節外の構成素位置 [が左方転位要素によって占められる]
- b. その代わりに節の中に [Pronominal が起こる] 位置がある
- c. [左方転位要素と Pronominal が] 同じインデックスを持つ
- d. 特別なプロソディー [具体的には、左方転位要素は常にある程度韻律的に卓立し、典型的にはポーズが後に続く]

(山泉 2013:432)

<sup>4</sup> 指示形容詞の次に名詞が後続する場合はキー（指示形容詞）の後続共起条件1として名詞を設定できるが、名詞句が後続する場合はキーの何語後ろに名詞が出てくるかは未知数のため、指定できない。

<sup>5</sup> 前方共起条件に関して、本論文では(11)～(14)のような、外置要素と節内代名詞要素の間に読点を含む例も収集した。すなわち、「名詞+”+これ+格助詞」のような、キーである「これ」などの代名詞の1つ前に「、」も名詞とともに前方共起する条件を含むパターンも収集している。

まず(15a)について、左方転移構文の外置要素は節内の述語の格支配を受けていないはずであるから、外置要素と思しき構成素は格標示を欠く（無助詞である）必要がある。(16)の名詞句「二十一世紀に残したいもの」はこれを満たしている。

(16) 二十一世紀に残したいもの *i* それ *i* は自然と平和です

(CSJ)

コーパスで例文を収集する際に、名詞と代名詞または指示形容詞は隣接するように設定しているため、その2つの間に助詞が入り込むことはない。すなわち、今回収集した例文において、代名詞または指示形容詞の前に置かれる外置要素と思しき構成素は全て無助詞成分である。

次に、(15b)について、外置要素の後続節内に代名詞または指示形容詞がつく名詞を含むことを左方転位構文であるための必要条件とする。例えば(16)は、外置要素「二十一世紀に残したいもの」の後に、節である「それは自然と平和です」が続き、その節内に代名詞「それ」が含まれている。

(16) (再掲) 二十一世紀に残したいもの *i* それ *i* は自然と平和です

(CSJ)

コーパスの例文収集時点で「名詞と代名詞（または指示形容詞）が隣接して共起する」という条件を設定しているため、収集される例文はすべて、外置要素と思しき名詞（句）とその後に代名詞または指示形容詞を含んでいる。しかし、節内代名詞要素と思しき代名詞または指示形容詞が名詞句の後続節内に属しない例文は左方転位構文ではないので、分析対象から省かなければならない。(17)、(18)は無助詞成分「当たり」「私が最初に着てたやつ」に節が後続せず、代名詞「これ」と終助詞で文が完結しており、左方転位構文ではない。

(17) 当たり、これ？

(18) 私が最初に着てたやつ、これか。

(NUCC)

(15c)は、左方転位要素と節内代名詞要素が同一指示を受けるということである。よって、節内代名詞要素を左方転位要素で言い換えたときに文意が成立するということになる。この言い換えテストを用いて、(15c)を満たすかどうかを判定する。例えば、(19a)は、(19a')の

ように節内代名詞要素「これ」のところを外置要素に言い換えた際に、意味の通る文章として成立する。一方(20a)の「これ」と無助詞成分の名詞である「今回」を言い換えると(20a')のようになり、文が成立しなくなる。これは、「今回」と「これ」が同一指示を受けていないためである。

(19) a また同年の香港返還<sub>i</sub>、これ<sub>i</sub>をあたしは是非見たい、それまで命がもつかしら  
と心配していた母だったが、（略）

a' また同年の香港返還をあたしは是非見たい、それまで命がもつかしらと心配し  
ていた母だったが、（略）

（BCCWJ）

(20)a 今回これを文庫に入れてもらうことになって、解説を自分で記すことにしたの  
は、四月から三十一書房で（略）

a' \*今回を文庫にいれてもらうことになって、解説を自分で記すことにしたのは、  
四月から三十一書房で（略）

（BCCWJ）

(15d)について、本研究ではテキストタイプの例文を用いており、韻律的情報を把握する  
ことができないため、大江ほか（2020）同様、この条件については考慮しないこととする。

なお、上記の条件をすべて満たしていても、以下のような場合は考察の対象外とする。

- ・歴史的仮名遣い、古語的な文法の例文

本研究は現代日本語に焦点をあてているため、(21)のような、明らかに古語的だと  
分かる例文は対象外としている。

(21) 「なでしこれには候はぬに、たまはり候ひぬ。

(22) 日向べに葦を敷きて遊びゐるわれの子これや女童ふたり

（BCCWJ）

- ・呼びかけか、左方転位要素か判断できない例文

(23)は、メイベルという聞き手に話し手が話しかけているともとれるし、メイベル  
と言う男が聞き手になにか危害を加えるという意味にもとれる。このような、名詞  
や名詞句が聞き手への呼びかけなのか、左方転位要素なのか判断のつかないものは  
今回の分類対象外とする。

(23)一だからわたしは言ってやったのよ。『メイベル、その男があんたにそんなこと  
をするんならー』受話器を戻す。

・外置要素の名詞句の前に他の要素が接続している例文

外置要素の名詞句の前に節をはじめとする他の要素が接続しているとき、節内代名詞要素と照応関係にあるものが外置要素なのか、それ以前の要素なのかを判断しづらい場合がある。(24)は、一見外置要素「ただで借りるもの」と節内代名詞要素「これ」が照応している左方転位構文に見える。言い換えテストを用いても、「ただで借りるものに對価を支払う習慣がありません」となり、問題なく成立する。しかし、この例全体を見たときに、本来「これ」は「アイデアやアドバイスといった無形なもの」を指している。すなわち、「アイデアやアドバイスといった無形なものに對価を支払う習慣がない。なぜならアイデアやアドバイスといった無形なものはただで借りるものだからだ」という意味だ。実際、全ての文を繋げてみると「アイデアやアドバイスといった無形なものは、ただで借りるものに對価を支払う習慣がありません。」となり、「アイデアやアドバイスといった無形なものが對価を支払う」というような不自然な文章になる。

- (24) (前略) アイデアやアドバイスといった無形なものは、ただで借りるもの、これに對価を支払う習慣がありません。

(BCCW)

このように、外置要素と思しき名詞句の前に他の要素が接続している場合は、言い換えテストで成立しても本当に外置要素と節内代名詞要素が照応しているか分からぬ場合があり、それを判断するには例文全体の意味を考えなければならない。そうなると形式だけで左方転位構文を同定することが難しく、同定の精度が落ちる可能性がある。そのため、このような例文は分類の対象外とし、(25)のような外置要素の前に他の要素がついていない例文を対象とする。ただし、副詞・接続詞に関しては節内代名詞要素と照応しないことが明らかであるため、外置要素の前方に付随していても用例に含める。

- (25) 幻の鉄道の置き土産<sub>i</sub>、それ<sub>i</sub>が昼神温泉。

(CSJ)

### 3.3. ラベリング

本論文では、「節内代名詞要素は一般的に主語である」という Lambrecht の主張が現代日本語においても当てはまるかを検証するため、以上により左方転位構文と同定された例

文を節内代名詞要素の文法関係に基づいて分類する。当初、文の構成上重要な主語と目的語、およびその他の3つのラベルで分類することとしたが、分類を進めるなかで節内代名詞要素が与格である左方転位構文も多数見られたため、これもその他と分けてラベリングすることとした。以下、それぞれの定義や例文を詳しく説明する。

(26) 節内代名詞要素による左方転位構文のラベリング

- a. 節内代名詞要素が「主語」の左方転位構文
- b. 節内代名詞要素が「目的語」の左方転位構文
- c. 節内代名詞要素が「与格」の左方転位構文
- d. 節内代名詞要素が「その他（上記以外）」の左方転位構文

(26a)は、以下の例のように、節内代名詞要素（ここでは「これ」「それ」）がその節の述語の動作や属性の主体である左方転位構文である。

(27) あるいは職人たちの労力<sub>i</sub>、これ<sub>i</sub>がお祭りを支えてたんだろう

(CSJ)

(28) 私の一番大事なもの<sub>i</sub>それ<sub>i</sub>は音楽です

(CSJ)

(29) 眩しさの中にも柔らかさを感じさせる光、肌をやさしく撫でる風<sub>i</sub>、それ<sub>i</sub>すらもどこか違う。

(BCCWJ)

(26b)は、節内代名詞要素が他動性の動詞の動作を受ける対象の語である左方転位構文である。(30)は、「これ」が「観察する」という他動詞の動作を受ける対象である。ほとんどの例は(30)、(31)のように節内代名詞要素の後ろに格助詞「を」を伴うが、一部(32)のように、格助詞「が」や係助詞「は」を伴う例文もある。（CSJ、NUCCについても、例文中のフィラーを省略して記載している。）

(30) 評価話者百四十名の平均の誤り率<sub>i</sub>これ<sub>i</sub>を観察しますとまず正規化前十九. 四パーセントのものが（略）

(CSJ)

(31) あとなんかちょっと飾りの色がついた何か、あめみたいなもの、<sub>i</sub>それ<sub>i</sub>をつけてもかわいいかな。

(NUCC)

(32) 「高いレベルの科学をすべて国民のものにする」という理想<sub>i</sub>、それ<sub>i</sub>が実現でき

るはずだという信念（かの「ブルーナー仮説」にも表現された）に突き動かされて、六十年代の教化研究は進められてきた。

(BCCWJ)

(33) **これらのパラメーターの閾値** *i*、これ *i*はあのユーザーが事前に与えます

(CSJ)

(26c)については、(26a)および(26b)に当てはまらない例文の中に、移動動詞の行き先を表す「に」（学校に行くなど）や受身の動作主につく「に」、「～になる」の「に」などさまざまな格助詞「に」を含むものが多く見られたので、本論文ではこれを便宜上「与格」としてラベリングした（(34)、(35)）。また、(36)や(37)のように、提題助詞「は」によって主題となっているものの、節内代名詞要素に続く助詞を格助詞「に」に言い換えることができる例文も「与格」のラベルに含める。

(34) **法案の関係資料** *i*、これ *i*にも載つておる数字でございまして、間違いございませんというのが結論でございます。

(BCCWJ)

(35) **深刻化しつつある建設労働力の不足** *i*、これ *i*に伴う建設のコストの上昇に対処するとともに、高度化、多様化する消費者のニーズに対応できる中高層住宅の生産システムの総合的な開発を行い、（略）

(BCCWJ)

(36) まずロールス・ロイス *i*、これ *i*は同じ幼稚園に通う、歌手の森進一さんが乗っていた。

(BCCWJ)

(37) **4番目の諸行事の防災体験研修会** *i*、これ *i*は何人か今まで行ってもらってると思いますが、今回はあの、ばんぎの〔苗字〕さんに行ってもらいます。

(CWPC)

以上の3つのラベルのどれにもあてはまらない左方転位構文を(26d)「その他」として分類する。例として以下のような例文が挙げられる。

(38) **こういう幽霊団体** *i*、これ *i*から政治資金を受けてよろしいのか、政治献金をする政治団体としてこういうものの存在が許されていいのか、（略）

(39) また、**世界の中で大変大きな地位を占める証券市場** *i*、これ *i*の開放ということも常に頭に入れていかなければならない。

(BCCWJ)

以上の4つのラベルに従って、左方転位構文であると同定した例文を分類する。

## 4. 調査結果

### 4.1. 代名詞別の結果

まず、今回節内代名詞要素に設定した代名詞や指示形容詞別に、その種類の分布を表3から表8に示す。それぞれ表の1列目に節内代名詞要素の種類、2列目に分類された例文数を記述している。3列目は調整頻度であり、それぞれのコーパスにおける「記号・補助記号・空白を除いた総検索対象語数」100万語あたりの語数(PMW)で示している。なお、PMWは小数点第三位で四捨五入している。また、それぞれのコーパスの総検索対象語数の数値は表2のとおりである。

表2 各コーパスの記号・補助記号・空白を除いた総検索対象語数

検索対象語数(語)	
BCCWJ	104,911,460
CSJ	7,576,046
CWPC	186,906
NUCC	1,135,329

表3 代名詞「これ」のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW	CSJ	例文数	PMW	CWPC	例文数	PMW	NUCC	例文数	PMW
主語	529	5.04	主語	382	50.42	主語	5	26.75	主語	2	1.76
目的語	142	1.35	目的語	108	14.26	目的語	2	10.70	目的語	0	0.00
その他	105	1.00	その他	30	3.96	その他	1	5.35	その他	0	0.00
与格	45	0.43	与格	16	2.11	与格	1	5.35	与格	1	0.88
総計	821	7.83	総計	536	70.75	総計	9	48.15	総計	3	2.64

表4 代名詞「それ」のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW	CSJ	例文数	PMW	CWPC	例文数	PMW	NUCC	例文数	PMW
主語	483	4.60	主語	56	7.39	主語	1	5.35	主語	4	3.52
目的語	100	0.95	目的語	32	4.22	目的語	1	5.35	目的語	2	1.76
その他	48	0.46	その他	24	3.17	その他	0	0.00	その他	0	0.00
与格	76	0.72	与格	13	1.72	与格	0	0.00	与格	0	0.00
総計	707	6.74	総計	125	16.50	総計	2	10.70	総計	6	5.28

表5 代名詞「あれ」のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW
主語	47	0.45
目的語	6	0.06
その他	1	0.01
与格	1	0.01
総計	55	0.52

CSJ	例文数	PMW
主語	6	0.79
目的語	2	0.26
その他	1	0.13
与格	0	0.00
総計	9	1.19

CWPC	例文数	PMW
主語	1	5.35
目的語	0	0.00
その他	0	0.00
与格	0	0.00
総計	1	5.35

NUCC	例文数	PMW
主語	7	6.17
目的語	5	4.40
その他	0	0.00
与格	1	0.88
総計	13	11.45

表 6 指示形容詞「この」がつく名詞のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW
主語	97	0.92
目的語	36	0.34
その他	51	0.49
与格	15	0.14
総計	199	1.90

CSJ	例文数	PMW
主語	32	4.22
目的語	22	2.90
その他	27	3.56
与格	18	2.38
総計	99	13.07

NUCC	例文数	PMW
主語	0	0.00
目的語	0	0.00
その他	1	0.88
与格	0	0.00
総計	1	0.88

CWPCは  
該当構文なし

表 7 指示形容詞「その」がつく名詞のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW
主語	66	0.63
目的語	25	0.24
その他	70	0.67
与格	23	0.22
総計	184	1.75

CSJ	例文数	PMW
主語	8	1.06
目的語	7	0.92
その他	8	1.06
与格	4	0.53
総計	27	3.56

NUCC	例文数	PMW
主語	1	0.88
目的語	0	0.00
その他	0	0.00
与格	0	0.00
総計	1	0.88

CWPCは  
該当構文なし

表 8 指示形容詞「あの」がつく名詞のときの節内代名詞要素の種類

BCCWJ	例文数	PMW
主語	5	0.05
目的語	4	0.04
その他	6	0.06
与格	2	0.02
総計	17	0.16

CSJ	例文数	PMW
主語	10	1.32
目的語	9	1.19
その他	10	1.32
与格	2	0.26
総計	31	4.09

NUCC	例文数	PMW
主語	3	2.64
目的語	0	0.00
その他	0	0.00
与格	1	0.88
総計	4	3.52

CWPCは  
該当構文なし

#### 4.2. コーパス別の左方転位構文の総数

次に、4.1 節の結果をコーパスごとに総計した、コーパス別の左方転位構文の総数を示す。

表 9 コーパス別の左方転位構文の総数

BCCWJ	例文数	PMW
主語	1227	11.70
目的語	313	2.98
その他	281	2.68
与格	162	1.54
総計	1983	18.90

CSJ	例文数	PMW
主語	494	65.21
目的語	180	23.76
その他	100	13.20
与格	53	7.00
総計	827	109.16

CWPC	例文数	PMW
主語	7	37.45
目的語	3	16.05
その他	1	5.35
与格	1	5.35
総計	12	64.20

NUCC	例文数	PMW
主語	17	14.97
目的語	7	6.17
その他	1	0.88
与格	3	2.64
総計	28	24.66

#### 4.3. 調査結果の考察

上記の調査結果をもとに先行研究との対比を行うと、以下の 2 つが特筆される。まず、

ほぼ全ての条件下において、節内代名詞要素の種類は主語が優勢でありつつも、目的語も一定数あらわれた。このことから、現代日本語の左方転位構文において、節内代名詞要素は主語であることが一般的だ(Lambrecht 2001)とまでは明言できない結果となった。

第2点目に、第2章の末尾で現代日本語において節内代名詞要素を含む左方転位構文は文語によくあらわれるという主張がある(竹内,2016)ことに触れたが、表9を見ると、CSJ、CWPC、NUCCいずれの口語コーパスのPMWの総計も文語コーパスであるBCCWJのPMWの総計を上回り、むしろ口語で左方転位構文が優勢であることが示された。

さらに、第1点目に関連して、表9より節内代名詞要素が目的語である割合はBCCWJよりも特にCSJで多いように見えるので、これについて詳細な検討を行ってみたい。BCCWJとCSJの間の目的語の割合の違いがコーパスの違いによって生じているものなのかを考察するため、BCCWJとCSJのデータを用いて $\chi^2$ 二乗検定の独立性検定を行った。その結果、BCCWJとCSJの間で節内代名詞要素の種類の分布に差が無い(帰無仮説)と仮定したときの期待度数は表10のとおりであるが、本論文の測定値の $\chi^2$ 二乗値は表11のとおり、16.56となった。

表10 BCCWJとCSJ間における各ラベルの期待度数

期待度数	主語	目的語	その他	与格	総計
BCCWJ	1214.499288	347.9071174	268.869395	151.7241993	1983
CSJ	506.5007117	145.0928826	112.130605	63.27580071	827
計	1721	493	381	215	2810

表11 BCCWJとCSJにおける $\chi^2$ 二乗値

$\chi^2$ 二乗値	主語	目的語	その他	与格	総計
BCCWJ	0.128668494	3.502391261	0.54729761	0.69594752	4.874304885
CSJ	0.308524333	8.398115926	1.312323047	1.66875929	11.6877226
					16.56202748

$\chi^2$ 二乗分布表より、自由度3、p=0.05のときの $\chi^2$ 二乗値は7.81(小数点第三位で四捨五入)のため、表11の $\chi^2$ 二乗値はp<0.05であり、帰無仮説は棄却される。すなわち、コーパスの種類によって節内代名詞要素の種類の分布に有意に差があるといえる。また、その中でもどの節内代名詞要素の種類で差があるのかを調べるために残差分析を行った結果、それぞれの標準化残差の値は表12のとおりとなった。

表12 各項目における標準化残差

標準化残差	主語	目的語	その他	与格
BCCWJ	1.06212525	-3.79903136	1.4667348	1.600195814
CSJ	-1.0621253	3.79903136	-1.466735	-1.60019581

表 12 より、標準化残差は CSJ における目的語のみで 1.96 ( $p=0.05$ ) を大きく上回り (BCCWJ においては-1.96 を大きく下回り) 、有意であるといえる。よって、現代日本語において、節内代名詞要素の種類が目的語となる左方転位構文は、文語よりも口語に現れやすいことが強く示唆される。

## 5. 結論

欧米圏の研究では、通言語的に転位構文の節内代名詞要素は主語が一般的であるとされてきたが、現代日本語の左方転位構文においては、主語だけではなく目的語の節内代名詞要素も一定数現われる。また、その傾向は口語コーパスである CSJ で特に強く、現代日本語内においても文語と口語の間に差異がある可能性が示唆された。

## 6. 今後の課題

### 6.1. 研究対象の韻律的特徴を考慮できなかった問題

第 3 章の(15)左方転位構文の同定基準において、「d. 特別なプロソディー [具体的には、左方転位要素は常にある程度韻律的に卓立し、典型的にはポーズが後に続く]」という条件があったが、コーパス上の例文には韻律情報が付与されていないため、今回は左方転位構文の同定にこの条件をまったく考慮しなかった。しかし、左方転位構文は口語においても多く現れる構文であり、本来この条件は左方転位構文を定義する際に非常に重要である。そのため、韻律的特徴にも考慮して収集した左方転位構文を用いて検証する余地がある。

### 6.2. 何を左方転位構文とするのかの問題

今回、山泉（2013）に則って、指示形容詞のつく名詞を左方転位構文の節内代名詞要素に設定して例文分類を行った。この規則に従うと、以下の例文は節内代名詞要素（「その」+「向こう」）が外置要素と同一解釈とならない（言い換えを行うと意味が変わる）ため、左方転位構文対象外となる。

(40)長さ百マイルの真水の湖、その向こうにニューヨークが横たわっている。

(BCCWJ)

しかし、「長さ百マイルの真水の湖」は無助詞成分の名詞句として後続節から独立して

おり、「そ（の）」を節内代名詞要素とすると、この二つの言い換えも可能である（＝「長さ百マイル～」と節内代名詞要素が同じインデックスを持つ）ため、左方転位構文と呼ぶことができる。しかし、「そ（の）」を節内代名詞要素とすると、以下のような問題も起くる。

(41) 同じクラスの太郎、その妹がパーティーに来ていた。

[作例]

「同じクラスの太郎」を左方転位要素として(41)を左方転位構文と見ると、パーティーに来ていたのは妹のみになるが、この例文を太郎と妹どちらもパーティーに参加したという意味に取ることもでき、その場合左方転位構文ではなくなってしまう。以上の様な難しさから、本論文では形式的に典型的な左方転位構文のみを取り扱ったが、左方転位構文の同定方法についてさらに研究を深める余地があると考える。

### 6.3. 口語において節内代名詞要素が目的語である左方転位構文が多い理由

本論文の測定値と統計結果から、節内代名詞要素が目的語である左方転位構文は文語よりも口語に現れやすいということが導かれたが、なぜこのような特徴が見られるのかの理由についての検証には至ることができなかった。しかし、聞き手（読み手）にとって、文語は読み手の意思で何度も読み返せるのに対し、口語は話し手に聞き返さない限り一度しか受け取ることができない情報形式であることを話し手が配慮して、左方転位構文を口語でより選んでいるという予想を立てることができる。

左方転位構文には、外置要素がそれまで主題でなかったものを主題としてアナウンスし、それを受け代名詞要素が節内の主題になるというはたらきがある。この性質は、口語の情報形式において、聞き手に主題をより分かりやすく伝えるために有効であり、特に節の途中に現れることが多い目的語に注意を促したいときに役立つと考えられる。また、今回分析したコーパス内でもよく見られたような本来目的語である外置要素が非常に長い左方転位構文については、現代日本語の場合、構文を使わずに表現すると主語と述語の距離が離れるため、聞き手が理解するのが困難になってしまう可能性がある。そのような混乱を回避するために話し手が左方転位構文をより積極的に選択しているとも考えられる。

節内代名詞要素が目的語である左方転位構文が口語により現れやすい理由として以上のような予想が立てられるが、これらは全て推測の域を出ないので、さらに研究を深める必要がある。

## 7. 参照文献

- 藤村逸子・大曾美恵子・大島ディヴィッド義和、2011 「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」 藤村逸子、滝沢直宏編『言語研究の技法：データの収集と分析』:43-72、ひつじ書房
- 現代日本語研究会（編）(2011) 『合本 女性のことば・男性のことば（職場編）』 東京：ひつじ書房
- 井上和子（1978）『日本語の文法規則』:75-80 東京：大修館書店
- Lambrecht, Knud (2001). Dislocation. In Haspelmath, Martin, König, Ekkehard, Oesterreicher, Wulf, & Raible, Wolfgang (Eds.), Language typology and language universals: An international handbook, Vol. 2, pp. 1050–1078. Berlin/New York: Walter de Gruyter.
- Minoru, Yamaizumi(2011) Left-Dislocation in Japanese and Information Structure Theory. 国立国語研究所論集 1, 77-92.
- 大江元貴・井關友里子・鈴木彩香(2020). 「日本語の左方転位構文はいつ,どのように使われるか？」『社会言語科学』 23,1:226-241.
- 下地理則(2020)「南琉球宮古語伊良部島方言における左方転移構文：初期報告」科研費基盤 C 研究報告会資料, 2020/11/28 (Zoom)
- 竹内史郎(2016). 「現代日本語における左方転位構文のタイプと起源」青木博史・小柳智一・高山善行（編）『日本語文法史研究』 3:189–212. 東京：ひつじ書房
- 山泉実(2013). 「左方転位構文と名詞句の文中での意味的・情報構造的機能」西山佑司（編）『名詞句の世界 その意味と解釈の神秘に迫る』, pp. 431–457. 東京：ひつじ書房

## 謝辞

本論文の執筆にあたり、ご協力をいただいた多くの方々にこの場を借りて心からの感謝を申し上げます。

まず、担当教員である下地理則先生には本論文の執筆にあたり、何度もご助言をいただきました。添削指導も何度も行っていただき心から感謝しております。上山あゆみ先生、太田真理先生、久保智之先生には講義や演習などで基礎知識を教えていただきました。

また、研究室の先輩方や同期のみんな、家族からも数えきれないほどのアドバイスをいただき、大変お世話になりました。